

楷

第四十五号

岡山大学
附属図書館報
OKAYAMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

KAI
No.45
2007
OCTOBER

<写真>
こもちくみ
荊藪(イバラグイ)ナリ

「備前国備中国之内領内産物絵図帳」より(岡山大学附属図書館池田家文庫所蔵)

目次

大学の顔(附属図書館副館長 本水昌二)	p. 2
学生企画による「池田家文庫 岡山後楽園発見ワークショップ」 (教育学部 赤木里香子)	p. 5
Read Me! Book.1「藤沢周平の描く世界」 (資源生物科学研究所分館長 河合富佐子)	p. 7
附属図書館利用環境整備について(学術情報サービス課)……………	p. 8
マスカット	p. 10
データベース講習会、池田家文庫絵図展、資生研公開、ほか 会議・研修・編集委員会から	p. 14

大学の顔

本 水 昌 二

今年度は私が関係する研究分野の国際会議数件が海外で開催されることになった。折角の機会であるので、旧知の大学を訪問し、研究室に加え図書館等も見学してきた。写真は、ベルリンにある Freie Universität Berlin (FU) の図書館である。これについては、後ほど言及したい。

さて、大学の基本的に重要な使命は、智の創造と集積、その伝承と活用であろう。これを具現するものとして、教育と研究そして社会貢献が行われる。教育と研究は車の両輪にもたとえられるものであり、等しく強固なものであり、将来を見据えた御者の手綱さばきと相俟って、学生・スタッフを乗せた馬車(大学)はまっすぐ目的に向かって邁進できる。教育と研究成果の社会への還元は、馬車の後に必然的についてくるものであるが、意識的、効果的に行動することも必要である。特に国立大学法人にとって、成果の社会への還元は社会貢献というよりはむしろ社会的責務といえるものである。いうまでもなく、教育と研究それ自体は重要な社会貢献であり、社会的責務である。

大学の使命を効果的に遂行するために必要なものは、まず第一に“ひと(学生とスタッフ)”であり、そして“もの(インフラストラクチャー)”、“かね(財政)”である。人、物、金、それぞれに大きな制約があり、また長年の積み重ねが必要で、一朝一夕に整うものではないが、綿密な将来的展望に裏打ちされた将来計画に従って着実に整備される必要がある。

先進国ではほぼ同様の傾向であるが、大学生数の減少が顕著である。我が国では、既に学生の定員確保が厳しい状況に陥っている大学も年々増加している。国立大学、特に地方の大学では定員割れまではいかないが、多くの大学・学部で受験生の減少傾向は続いている。次第に小さくなるパイを毎年同じ数の大学で奪い合うので、平均的に見て、一大学当たりの受験生は必然的に減少することになる。このような厳しい学生獲得の競争状況下では、大学に付託された使命を真摯に受けとめ、忠実に実行し、結果として社会的評価を高め、受験希望者増を計らなければならない。

大学に付託された使命を忠実に実行することに加え、その成果を広く社会に知っていただくことはさらに重要である。それには、個性溢れる大学の顔となるものが必要である。大学を代表する学長は最も強力な“顔”である。加うるに、“ひと”の分野を代表する教員、学生の顔が欲しい。さらに、大学である以上、“もの(インフラ)”を代表する顔も重要である。高層のモダンな教育/研究棟はあるにこしたことはないが、なかなか“大学の顔”にはなりにくい。

今夏のベルリンで訪問した大学(FU)では、多数の放射性物質の発見に成功した Otto Hahn (1879 ~ 1968 : 1944 年ノーベル化学賞受賞)の実験室・記念館と図書館を案内された。実験室は平屋のごくありふれた建物であるが、そのまま保存されていた。記念館は化学系の研究室としても使用されていたが、“大学の顔”の一つとしてふさわしいものであった。

図書館(写真)も“大学の顔”として紹介されたものである。写真1は図書館の概観の一部であり、卵型のモダンな建物で、右側には出入口がある。写真2は出入口を入った先にある書庫・閲覧室等へのチェックカウンターである。写真3は、1階のカウンターと2階の閲覧風景である。この閲覧場所は主にスタッフ用で、講義等の準備に使用される。閲覧場所は外壁周りにも備えられている。写真4は、最上階で左手側は学生が少しリラックスする場所である。写真5は、案内の途中、何気なく手にした本の内表紙を記念に撮影したものである。1877年フランスで出版されたものである。

特別な保存ではなく、誰でも手に届く書架に備えられている。館内は極めて静粛で、カメラのシャッター音を気にしながら数枚撮影させてもらった。なお、カウンター付近で知人から説明を受けていたところ、カウンターの一人がおもむろに近づいて、声を小さくするように注意された。地下から最上階まで全てオープンになっており、物音も筒抜けになるということであった。建物のモダンさ、勉強・調査等のための館内の最新設備などから、“大学の顔”の一つとしての資格はあると思った。

ベルリンからの帰途、チェコのチャールズ大学(1348年設立、中央ヨーロッパ最古の大学)の薬学部も訪ねることができた。現在、新しい図書館を建設中ということで、やはり図書館が自慢の種類らしい。写真を割愛したが、ベルリンの前に訪問したワルシャワ大学の図書館もすばらしい。これが図書館?というほどのモダンな外観で、やはり“大学の顔”を意識したものである。

古今東西、図書館と大学は一体的なものと考えられている。図書館は、教育、研究、社会貢献のすべてにおいて重要・必須の知的基盤である。このような考えから、特に西欧では図書館、博物館の整備に力を注ぎ、それが大学の Academic quality の高さを誇示し、“大学の顔”の一つにしたい、と考えているように思う。

岡山大学の場合、附属図書館の“顔”の価値はいかほどであろうか。旧館は多少傷みもあるが、時計台もあり、後ろに新館も控え、扱いようでは十二分に“岡山大学の顔”になりうる。収蔵している資料も、関ヶ原合戦の絵図等を含む池田家文庫等第一級の特種文庫もある。資源生物科学研究所分館には、植物関係図書の Pfeffer 文庫、大原漢籍文庫・農書文庫等貴重な資料が豊富にある。鹿田分館にも古医書集成等歴史的にも貴重な医学書がある。電子ジャーナルも約 8,800 タイトルとかなり充実している。現時点でも岡山大学の顔として、アピールする価値十分である。

電子ジャーナル、データベースについて私見を述べれば、これらは教育・研究を世界に伍して進める上で、必須のインフラといえる。今後は、財政面からの制約もあり、一層の選択と集中による量より質の充実が必要であろう。電子ジャーナルの充実により、図書館から教員、学生の足が少し遠のいたように感じている。研究に必要な文献調査は図書館に出向かなくても研究室で十分にこと足りる。研究室所属の学生の足も図書館から遠ざかる傾向にある。これは、時間の節約という点では、メリットと考えられるが、学生の教育的観点からはどうであろうか。インターネットで情報収集は可能であるが、一般的にこれらの情報は玉石混淆である。学生による玉と石の判別の困難性が懸念される。レポート等の作成では、学生はインターネットから情報を取得するが、たまたまヒットした情報でレポート作成を行う。まかり間違えば、玉のない石を組み合わせたレポートが作成される可能性も否定できない。教員の指導も大切であるが、教育上は、やはり体系的・系統的にまとめられている書を紐解き、玉と石を見分ける訓練の必要性がある。学生には図書館を活用することを習慣づけることが推奨される。

現在は、附属図書館も様変わりしている。正面出入口を通り中に入ると、入館装置があり、カードを通すと入館できる。1階には、新聞コーナー、自然文庫コーナー等もある。図書の自動貸し出し装置も備えつけられている。2階には、アメニティコーナーがあり、海外の衛星放送も鮮明な画面で見ることができ、留学生にも好評である。少しリラックスして、グループミーティングもできる机、いすも備わっている。議論が沸騰すれば、先日設置された自動販売機で好みのドリンクでのどを潤すこともできる。数人の学生グループが結構楽しく勉強している。勿論、書を紐解くに適した静粛な閲覧場所も十分なスペースで準備されている。まず本学スタッフ、学生が附属図書館のすばらしさを認識し、訪問者、友人等に“岡山大学の顔”の一つとして紹介していただきたいと思う。

さらに、地域の方々にもすばらしさを知っていただき、附属図書館あるいは本学のサポーターとなり、貴重な文庫、資料等の整理、整備等に尽力いただけるボランティアシステムができれば、一層の社会貢献、地域貢献が進展するものと考えている。

ベルリンのFUの図書館も素晴らしいが、前述のように、本学の附属図書館も、内容的には“大学の顔”の資格は十分にある。受験生あるいは一般の外来者が時計台をバックに写真を撮りたいと思ってもらうためには、外観、建物周囲の整備、整頓も必要である。また内容的なすばらしさをもっと知ってもらう必要がある。昨年につき、本年度も岡山市デジタルミュージアムで池田家文庫の展示会が催される。池田家文庫にとどまらず、岡山大学の Academic quality を広く知っていただく絶好のチャンスである。近々、池田家文庫から選りすぐりの絵図を基にした絵葉書が作成される。これは、単なる絵葉書ではなく、美術的価値もあわせもち、身近なところに飾ってよし、外国の方にも喜んで頂ける優れものである。これは、本学で進められてきた学術的研究成果の一端をわかりやすい形で社会に還元し、本学の智の一端を世間に広く知っていただくことが大きな目的とされている。来学の旧知にも“岡山大学の顔”として、附属図書館を紹介したい。お土産には、手軽な池田家文庫絵葉書とフォトスタンドをセットでさしあげよう。



(1)



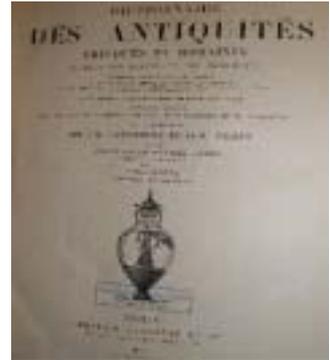
(2)



(3)



(4)



(5)

(もとみず・しょうじ 附属図書館副館長)

学生企画による

「池田家文庫 岡山後楽園発見ワークショップ」

赤木 里香子

岡山大学が有する財産のひとつに池田家文庫のような貴重資料があることは言うまでもありませんが、本学に所属する学生たちが潜在的に秘めているパワーも、忘れてはならない大切な資源です。それらを引き出し活用することで、大学と地域の連携や社会貢献といった課題に応えたい、そうした考えから、この企画がスタートしました。

教育学部のカリキュラムには「総合演習」という科目があり、学生が自ら課題を設定して問題解決するプロセスを組み入れることが期待されています。平成19年度前期、教育学部の山口健二准教授と筆者が担当する「総合演習D」では、履修した3年生21名に、こども向け「岡山後楽園発見ワークショップ」のメインスタッフとして企画運営に携わってもらいました。

このワークショップは、岡山大学附属図書館主催で昨年度12月に開かれたものに基づいています。つまり、池田家文庫所蔵の「御後園絵図」(文久3年)の高精細デジタル画像を約4.5メートル四方に引き延ばした巨大複製絵図を、じっくり観察したうえで現在の後楽園を見て回り、昔と今の違いを確かめるといった活動が軸となっています(詳細は本誌前号参照)

今年度の企画を進めるにあたり、まずは学生自身に、附属図書館で実物の「御後園絵図」を閲覧してもらいました。貴重な特殊資料を見せていただく際には、資料保存上さまざまな注意事項を守らねばなりません。学生たちは緊張しながらも、実物の絵図の和紙の状態や絵の具の色鮮やかさに見入っていました。その後、巨大複製絵図を広げると、細部が拡大され、何が描かれているかわかりやすくなっていることが一目瞭然です。上に乗ってワイワイ話し合うこともできるので、図書館演習室での授業は一気に盛り上がりました。

6月初めには実際に後楽園を訪れ、こどもたちが昔と今の違いを探して園内を探検する際に、どのような活動を取り入れるかを検討しました。7つの学生グループがそれぞれプレゼンテーションを行い、コンペ形式で優れた企画を決めた結果、採用されたのは、オリエンテーリング風に園内の六鎮守の社を回り、シールを集めるとシートに池田家の家紋が完成するという、ゲーム感覚を取り入れたアイデアです。全員が役割分担して企画の細部を検討しながら、シールや記念品を作成するなど作業を進め、7月8日(日)のワークショップ当日を迎えました。





会場設営、受付から、昔の後楽園についての紙芝居の上演、記録用デジカム操作の実演、園内探検の引率、記念品の贈呈に至るまで、数多くの場面で学生が活躍しました。こどもたちと接する時、学生たちが自然と笑顔になることに改めて驚かされ、より大きな可能性を感じることができました。貴重資料を学校教育や生涯学習の現場に活かすうえでは、これからもこうした取り組みが必要

になってくるに違いありません。

最後に、本ワークショップは附属図書館と教育学部の共催で実現しました。当日のみならず、「総合演習D」の授業においても、附属図書館の北條充敏参考調査係長、大園隼彦さん、久磨由美子さんに多大なご支援、ご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。



複製絵図の上で話し合い。何が見つかったかな？



ワークショップを終えて。学生手作りの修了証をおみやげに。

(あかぎ・りかこ 岡山大学教育学部准教授)

藤沢周平の描く世界 ~ Read Me! Book.1 ~

河合 富佐子

映画やTVを通じて藤沢作品に触れた方もいるだろう。しかし、映画、TV化されたものは無関係ではないにしても、同じではない。同じであるといえば、監督、脚本家に失礼だろう。中年以上の男性に広く支持される藤沢作品を学生に読んでもらいたい本に挙げるのはいささかためらいを感じるが、日本人の美学、感性をよく伝えてくれるように思うので、敢えて取り上げた。

藤沢ワールド 藤沢作品の素晴らしさは文章とそこから浮かび上がる情景が非常に美しいこと、人間の心情描写の見事さ、はやりの「品格」をこれほど感じさせる作家はいないことにつきる。必要や義務で読む本を除いて、小説を購入するという行為には、ある種の選択が働く。読んだ後、残す、残さないという選択を私はする。さらに本棚が埋まると、再選択で残さないものを放りだす。しかし、藤沢作品に限っては90%以上を購入したにも関わらず、放り出した本は一冊もない。その中で、『蝉しぐれ』は学生でも共感をもてる数少ない藤沢作品だろう。少年から青年、壮年までの成長過程を描くとともに、友情小説、恋愛小説としても日本の小説史上、ベストいくつか間違いなく入ると思う。藤沢恋愛小説としては『海鳴り』もいいが、主人公の年齢などから、学生には共感しにくいかもしれない。むしろ、『よろずや平四郎活人剣』、『用心棒日月抄』シリーズが楽しいだろうし、「獄医立花登手控えシリーズ」も入りやすいだろう。

人間の避けて通れない生老病死の内、病以外は藤沢作品を読むといやでも考えさせられる。しかし、真正面からこれらの主題を描くのではなく、自然に感じ取られるという言い方が当てはまるだろう。藤沢作品に敵役、悪人がいないわけではない。しかし、老若男女に関わらず、人に向ける視線に蔑みや悪意はない。藤沢作品と重なってそれぞれ時代を築いた司馬遼太郎や池波正太郎には独特の視点ないし偏見というか、ある種のアクのようなものを感じるので、好きな作家ではあるが、丸ごと受け入れにくい。しかし、藤沢作品を読んで、嫌悪感や違和感を感じたことはない。どちらかという多作であったにも関わらず、ばらつきの少ないこと、手抜き作品の少ないことも、この作家の姿勢、生き方を反映しているように思えて、好感が持てる。特に言葉の選び方、文章など、いかにも東北人らしく律儀で丁寧な仕事ぶりである。選び抜かれた言葉の美しさ、自然に情景が浮かび上がる美しい文章は映画・音楽好きであったという作家の性情と無関係ではないように思える。

人生を見据える静かな視線 上記の作品や多くの短編に見られる人間の信頼できる側面とか救いの感じられる結末以外に、この作家のもう一つの側面として、非常に暗い作品群がある。正直言って、いつも読む気にはなれない。しかし、ひよっと読む気になった時、「溟い海」(『暗殺の年輪』収録)、『又蔵の火』、『逆軍の旗』なども読むことをお勧めする。『一茶』や『白き瓶』もこの系譜に入る。この作家にして地獄を覗いた時代のあったこと、人間の深淵や本質を見据える眼を感じさせるが、それでも不思議に憎悪はない。藤沢周平の描きたかったのは結局、人生、人間の生き方ではないかと思われる。

(かわい・ふさこ 附属図書館資源生物科学研究所分館長)

附属図書館利用環境整備について

学術情報サービス課

附属図書館では利用者の利便性向上のため平成18年度末から今年度にかけて利用環境整備を実施した。

1. 入館してすぐに利用者に対応できるようにカウンターの位置を玄関すぐの場所に変更した。
2. 中央館の入退館装置をリニューアルしてフラPPER式ゲートを設置した。



(運用カウンターと入退館装置)

3. 自動貸出装置を増設し、中央館2台、鹿田分館1台体制とした。



4. 中央館館内案内用ディスプレイを設置し、様々なインフォメーションに活用している。



5. 図書館のシンボルでもある時計塔を改装し、そこに自動販売機を2台設置した。

それと同時にその前のスペースを「アメニティコーナー」と名付け、喫茶、談話、グループ学習が可能なスペースとした。ここには昨年度1月に設置した海外衛星放送視聴コーナーもあり、学生の集える場所として整備を行った。



マスカット

データベース講習会開催のお知らせ

データベース提供各社より講師を招いて講習会を開催します。多数のご参加をお待ちしております。参加ご希望の方はお早めにお申し込みください。

津 島 地 区	SciFinder Scholar (デモのみ) 日時: 10月30日(火) 10:20~11:50、14:20~15:50 会場: 附属図書館 中央館 新館 1FAV 演習室 対象: 本学津島地区または鹿田地区所属の学生・教職員	<お申し込み先> 参考調査係 (内線 津島 7322)
	Web of Science (実習つき) 日時: 11月2日(金) 10:20~11:50、12:40~14:10 会場: 附属図書館 中央館 新館 1FAV 演習室 対象: 本学学生・教職員	
	Lexis.com (実習つき) 日時: 11月6日(火) 12:40~14:10 会場: 附属図書館 中央館 新館 1FAV 演習室 対象: 本学法学部または法務研究科所属の学生・教職員	
	ScienceDirect (実習つき) 日時: 11月9日(金) 10:20~11:50 会場: 附属図書館 中央館 新館 1FAV 演習室 対象: 本学学生・教職員 (要事前ユーザー登録)	
	LEX/DB インターネット (実習つき) 日時: 11月12日(月) 14:20~15:30 会場: 附属図書館 中央館 新館 1FAV 演習室 対象: 本学学生・教職員	
鹿 田 地 区	医中誌 Web (実習つき) 日時: 10月31日(水) 10:20~11:50、13:00~14:30 会場: 鹿田情報実習室1 (附属図書館 鹿田分館 3F) 対象: 本学鹿田地区所属の学生・教職員	<お申し込み先> 鹿田分館図書係 (内線 鹿田 7053)
	Web of Science (実習つき) 日時: 11月2日(金) 16:20~17:50 会場: 鹿田情報実習室1 (附属図書館 鹿田分館 3F) 対象: 本学学生・教職員	
	ScienceDirect (実習つき) 日時: 11月9日(金) 16:20~17:50 会場: 鹿田情報実習室1 (附属図書館 鹿田分館 3F) 対象: 本学学生・教職員 (要事前ユーザー登録)	

資源生物科学研究所分館一般公開について

2007年5月12日(土)に資源生物科学研究所の一般公開が行われました。これは一般市民の方々に、研究所の研究内容などを公開し、研究所を紹介する行事です。今回は409人の参加者がありました。

各グループによる実験デモ、バイオ実験の体験、倉敷南高校の生徒さんによる国際宇宙教育実験等が行われ、目で見て、触って、楽しく最新の科学が紹介されました。6つの展示ブースでクイズが行われ、解答された方には、大麦スープ、メキシコマンネングサなどが贈られました。

図書館では、史料館の1階にて、貴重書の一部である「蕃語考」「甘藷百珍」「農政全書」などを展示し、「Physiotypia Plantarum Austriacarum」の1ページ分を複製し直接触っていただきました。

来館された方々にはダーウィン自筆サイン(複製)入りしおりを差し上げました。

図書館には約300名の方が来館されました。

平成19年度大学図書館職員長期研修に参加

7月2日(月)から13日(金)までの期間、筑波大学で開催されました、平成19年度大学図書館職員長期研修に当館職員も参加いたしました。

この研修は「全国の国立大学図書館等の中堅職員に対し、学術情報に関する最新の知識を教授するとともに、図書館経営・情報サービスの在り方について再教育を行い、職員の資質とマネジメント・企画等の能力の向上を図ることにより、大学図書館等の情報提供サービス体制を充実させること」を目的として毎年開催されているもので、今年度が第39回目となります。

今年の研修には全国の国公立大学から図書館職員36名が参加し、図書館マネジメント総論と学術情報流通等各論をテーマとした講義に基づき、企画書作成などの演習を行いました。

オリエンテーション・ガイダンス(中央館)

本年4~6月に以下のとおり実施し、延べ1,571人の方にご参加いただきました。

<図書館オリエンテーション>

実施日：4月5日~6月23日 実施回数：46回 参加人数：1,542人

内容：中央館利用方法・規則の概説、蔵書検索のデモ、館内ツアー

<新任教員向け図書館オリエンテーション>

実施日：4月27日~5月8日 実施回数：2回 参加人数：6人

内容：中央館利用方法・規則の概説

<文献探索・入手支援ガイダンス>

実施日：4月25日~5月16日 実施回数：5回 参加人数：23人

内容：文献探索の流れの概説、データベースの紹介・検索演習、文献情報の見方の説明、文献の取り寄せ方の案内、等

オリエンテーション・ガイダンス(鹿田分館)

学部等から依頼を受け、実施しました。

- ・ 医学部保健学科新入生オリエンテーションにて(利用案内)
- ・ 医学部3年次編入生オリエンテーションにて(利用案内・時間外利用講習)
- ・ 順正高等看護専門学校3年生オリエンテーションにて(利用案内・館内ツアー)

- ・ 医歯学総合研究科修士課程新入生オリエンテーションにて (利用案内・時間外利用講習)
- ・ 医学部医学科新入生オリエンテーションにて (利用案内)
- ・ 歯学部早期見学実習にて (利用案内・館内ツアー・時間外利用講習)
- ・ 医歯学総合研究科講義にて (文献検索・利用案内・時間外利用講習)

オリエンテーション・ガイダンス (資源生物科学研究所分館)

資源生物科学研究所の新入生 (4/10)、農学部の新入生 (5/7、14) に対しオリエンテーションを実施しました。内容は図書館の概説と利用案内です。加えて、農学部の新入生には館内の案内および展示史料の説明をしました。合計 132 名の方にご参加いただきました。

教員からの寄贈図書リスト

次の方々から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

中央館 教員業績コーナー (本館1階) に配架

岡田雅夫 [理事・副学長]

行政法学と公権力の観念 (行政法研究双書 23) 弘文堂, 2007 (323.95/O)

岡本五郎 [大学院自然科学研究科]

わが岡山のマスカット: 風土、人、技術 岡山県経済農業協同組合連合会, 2000(625.61/O)

岡山のモモ、日本のモモ: 生産安定と品質向上の歴史 (共著)

全国農業協同組合連合会岡山県本部, 2006 (625.51/O)

尾上雅信 [教育学部]

フェルディナン・ビュイッソンの教育思想 : 第三共和政初期教育改革史研究の一環として

東信堂, 2007 (371.235/B)

河原祐馬 [大学院社会文化科学研究科]

外国人参政権問題の国際比較 (編) 昭和堂, 2006 (314.89/G)

小松泰信 [大学院環境学研究科]

大地のビジネスと挑戦者たち

: 農業界の「逸材」が集い、その「進化」を熱く語った! (コーディネータ)

大学教育出版, 2006 (611.7/D)

姜 克 實 [大学院社会文化科学研究科]

晩年の石橋湛山と平和主義: 脱冷戦と護憲・軍備全廃の理想を目指して

明石書店, 2006 (319.1/I)

孫 路 易 [教養教科目担当, 非常勤講師]

中国思想認識における幾つかの問題 朋友書店, 2006 (122/S)

富岡憲政 [大学院自然科学研究科]

生命現象の多様なタイミング機構の総合的理解: 時間を基軸とした生命科学の構築

: 実績報告書 平成 18 年度 (代表者) 富岡憲治, 2007 (F460/S)

鳥 居 滋 [名誉教授]

Electroorganic reduction synthesis Volume 1・2 Kodansha, Wiley-VCH, 2006 (437/T)

Nakamura Ian [外国語教育センター]

Understanding 'stuckness'

: descriptions and interpretations of how EFL speakers and a native speaker co-manage
talk-in-interaction Ian Nakamura, 2006 (F801/N)

西田和弘 [大学院法務研究科]

社会保障論(編) 法律文化社, 2007 (364/S)

芳賀良 [大学院社会文化科学研究科]

実践内部統制の法務: 内部統制体制の構築と社内規程(共著) ぎょうせい, 2007 (336.84/J)

波多野敏 [大学院社会文化科学研究科]

死刑制度の歴史(共訳)(文庫クセジュ 907) 白水社, 2006 (326.41/C)

吉岡伸一 [大学院社会文化科学研究科]

金融機関CS向上のための事例に学ぶ営業店クレーム・トラブル対策(執筆・企画協力)

金融財政事情研究会, 2006 (338.5/K)

<資源生物科学研究所分館>

米谷俊彦 [名誉教授]

「岡山検定」公式テキスト: 岡山文化観光検定試験公式テキストブック(分担執筆)

吉備人出版, 2006 (670/29)

(敬称略五十音順)

陸の道 ~池田家文庫絵図展~ のお知らせ

岡山大学附属図書館所蔵の池田家文庫絵図を、広く一般に展示公開して活用する具体的な場として池田家文庫絵図展を開催してまいりました。会場を岡山市デジタルミュージアムに移して、今年で3回目になります。

今回は、宿駅伝馬制、岡山の街道、岡山藩の参勤交代など、池田家文庫絵図の名品の中から「陸の道」に関する資料を展示します。中でも、「東西道中之絵図」(江戸時代後期)は広げた際の全長が18mという豪華な絹布貼付表紙の折り本で、江戸から肥前五島まで、陸路、海路が描かれています。それだけでなく、沿道の宿駅名、名所、宿駅間の距離、従来大名行列や旅する庶民などが絵画的に描かれており、おそらく藩主の手元で鑑賞されたものと思われます。

開催期間は平成19年11月16日(金)~12月2日(日)の10:00~18:00です。ただし、11月19日・26日はデジタルミュージアム休館のため、展示会も休みになります。

また、11月23日(祝)14:00~は「江戸時代の陸上交通」と銘打って、岡山県立記録資料館の在間宣久館長の講演会が予定されています。入場料は無料ですので、ぜひご来場ください。

会議

学外

- 19.2.7 平成 18 年度第 2 回
デジタルコンテンツ・プロジェクト会議
(於 筑波大学)
・最終報告について
- 2.7 平成 18 年度目録システム/ILL システム講習会担
当者会議
(於 国立情報学研究所)
・平成 18 年度目録システム/ILL システム講習会
開催報告
- 4.19 ~ 4.20
第 55 回中国四国地区大学図書館協議会総会
(於 岡山ピュアリティまきび)
・中国四国地区 NACSIS-CAT/ILL 地域講習会の
あり方について
- 第 34 回国立大学図書館協会中国四国地区協会総会
(於 岡山ピュアリティまきび)
・国立大学図書館協会中国四国地区協会図書・学術
情報系専門資格認定要領及びポイント表の改正に
ついて
・委員会等の活性化について
- 5.31 ~ 6.1
第 78 回 NPO 法人日本医学図書館協会総会
(於 大宮ソニックシティ)
・平成 19 年度事業計画
- 6.27 ~ 6.28
第 54 回国立大学図書館協会総会
(於 JAL リゾートシーホークホテル福岡)

学内

- 19.3.2 平成 18 年度第 4 回附属図書館運営委員会
- 19.5.20 平成 19 年度第 1 回附属図書館運営委員会
- 19.5.30 池田家文庫等特殊文庫委員会
- 19.7.20 平成 19 年度第 2 回附属図書館運営委員会

研修

- 平成 19 年度出版入門講座
参加者 中山千佳子 (5.28 ~ 5.29)
- 平成 19 年度大学図書館職員長期研修
参加者 遠矢 厚志 (7.2 ~ 7.13)
- 平成 19 年度 ILL システム講習会
参加者 遠矢 厚志、藤原 智孝、田中 智子、
久磨由美子 (9.6 ~ 9.7)
- 平成 19 年度目録システム講習会 (雑誌コース)
参加者 西村 朋子 (9.12 ~ 9.14)

編集委員会から

今号から新たなシリーズ「Read Me!」が始まりました。紹介された本については、出来る限り図書館に揃えていくつもりです。先生方がどのような本に感銘を受け、紹介して下さるのか、楽しみにして頂けたらと思います。今回紹介されている藤沢周平作品では、例えば『蝉しぐれ』は中央館新館 4F の 913.6/F に、『暗殺の年輪』は新館 4F の 913.68/F にあります。さらに、新しく『藤沢周平全集』(全 25 巻 + 別巻)も入りました。新館 4F の 918.68/F にありますので、ぜひご利用ください。各巻の所収作品は、蔵書検索で『藤沢周平全集』を検索し、書誌を見て頂ければ一覧できます。

折しも季節は「読書の秋」。みなさまの読みたい本リストにあがる 1 冊が見つければ幸いです。

岡山大学附属図書館報「楷」 No.45 平成 19 年 10 月 1 日

発行人 小花洋一 編集 広報誌編集委員会

岡山大学附属図書館発行 〒700-8530 岡山市津島中三丁目 1-1 電話 086-252-1111

ホームページ URL <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>